

ブラジル オレンジは2025-26年度も供給不足の可能性

[FreshFruitPortal](#) 2025年1月20日

ブラジルの柑橘類ベルト(サンパウロ州及びトリアングロミネイロ地域)で2024年10月以降雨が戻ったとはいえ、2025-26年度シーズンのシナリオは依然として不透明である。Cepea(サンパウロ大学応用経済高等研究センター)は、雨が降った後に開いた花は満足のいくものと見られると解説した。しかし、作物の生育は依然としてシーズン中の気象条件に左右される。2024-25年度のオレンジの収穫量は、2億2,314万箱(40.8kg/箱)と推計されており、これは2023/24年度シーズンに比べて27.4%の減少となる。

同センターによると、悪天候により5シーズン連続で原料果実の生産が妨げられ、果汁の在庫が逼迫している。同センターの推定では、ブラジルのオレンジ果汁の在庫量が2024-25年度の収穫期間中に回復せず、今シーズンを実質的にゼロで終了する可能性がある。したがって、少しでも回復させるためには、2025-26年度シーズンは非常に良好である必要がある。

同センターは、2024-25年度シーズンの輸出を減少させても加工用果実の不足を補うことができないため、加工業界の需要は高止まりするだろうと強調した。

米国フロリダ州の状況の影響 フロリダ州では在庫が減少しており、国内市場価格を維持する一助として、ブラジルからより多く輸入する必要がある可能性がある。ブラジルで生産と在庫が限られているという上記のシナリオに加えて、米国農務省が12月10日に発表したデータは、フロリダ州の2024-25年度のオレンジ収穫量が合計1,200万箱(40.8kg/箱)で、10月に発表された数値(1,500万箱)と比較して20%(300万箱)減少する可能性があることを示している。フロリダ州の生産量の減少に影響を与えた2つの要因は、カンキツグリーニング病と2024年10月上旬のハリケーンミルトンである。

2025年までは、ブラジルの柑橘類栽培で起こる状況が、年間を通して価格を支える可能性がある。

南アフリカ リンゴとナシの輸出シーズンは前向きな予報

[FreshFruitPortal](#) 2025年1月23日

業界団体のHortgroは最近のリリースで、昨年の南アフリカの仁果類の出荷量はリンゴとナシの両方で増加したと明らかにした。

同協会によると、リンゴの輸出量は合計4,860万箱で、前年比で12%増加した。2025年の輸出シーズンに関する当初予測では、2024年の数値に対してさらに5%の成長が示唆されている。Hortgroは、昨年の輸出量のこの肯定的な傾向は、いくつかの要因に帰することができるかと詳しく説明している。統計を押し上げた条件の一部を挙げると、若い果樹園の成園化による生産量の増加、多収性リンゴ品種の栽培、2023年の降雪や洪水の悪影響からの回復、そして概ね良好な気象条件であった。

今年の輸出量は5%増と予測される。ロイヤルガラ/ガラ(+6%)、クリップスピンク/ピンクレディー(+7%)、ビッグボックス/フラッシュガラ(+24%)等の品種がこの成長を牽引すると予想される。さらにクリップスレッド/ジョヤの見通しは有望で、主に栽培面積の拡大と高い果実品質の保持により、9%の増加が予測されている。

同様に、ナシの輸出量も前年に比べて緩やかな増加が予想される。夜間の気温の低さは果実の肥大と着色に有利であり、全般的な品質に貢献する。日焼けは最小限で、穏やかな気象条件は全般的に有益である。現在、出荷の始まりは昨年より7~10日遅いが、これはまだ正常と見なされている。

ナシの推定輸出量は2,110万箱に達し、2024年に比べて4%増加する。フォレットレ品種とアバテフェテル品種の輸出量はそれぞれ7%増加すると予測されるが、パッカムズトライアンフは2%の緩やかな成長が見込まれている。チーキー、セリーナ、ローズマリー、センプレ等の夏のナシの輸出量は、すべて昨年に比べて増加すると予測されている。ボンクレティアン、ローズマリー、セリーナの早期の収穫が始まり、風による擦り傷は最小限で、果実の品質は素晴らしいと報告されている。(翻訳に当たり、構成の一部を変更しました。)